



TITLE:

昭和四、五、六年邦文天文書一覽

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 昭和四、五、六年邦文天文書一覽. 天界 1932, 12(131): 96-100

ISSUE DATE:

1932-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161887>

RIGHT:

# 昭和四、五、六年邦文天文書一覽

水 野 千 里

本會の名物「副會長」水野氏は又「天文圖書館長」と尊稱し奉る愛書家である。本會の創立以來、又、本誌の創刊以來、邦文の天文新刊書を一つ殘らず、本誌上に於いて紹介せられるに力められたる勢は感謝すべきである。氏の御盡力によつて吾々は日本に於ける天文書を最も總括的に通覽することが出来る。此の文は「天界」第1號、第2號、第57號、第58號、第75號、第100號の續きと見るべきである。（編輯者書）

昭和四、五、六年に 私の一讀したところの邦文天文書を列記し、短評を試むることにする。

書 名	著 譯 者	冊數	定價	發 行 所
1. 標準天文學	山 本 一 清 著	1. ¥ 3.00	天文同好會	
2. 通俗天文學講話	一 戸 直 藏 著	2. ¥ 7.00	中文館書店	
3. 星と原子	谷 本 誠 譯	1. ¥ 2.00	岩 波 書 店	
4. 天文隨筆「星を語る」	野 尻 抱 影 著	1. ¥ 1.50	研 究 社	
5. 純正理學の基本問題	眞 田 豐 治 著	1. ¥ 3.50	香 草 舎	
6. 自然科學史	岡 邦 雄 著	1. ¥ 0.50	春 秋 社	
7. 科學と科學者	矢 島 祐 利 著	1. ¥ 2.00	鐵 塔 書 院	
8. 太陽系講話	青 山 信 雄 著	1. ¥ 5.80	大 鐙 閣	
9. 數理地理學	北 田 岩 藏 著	1. ¥ 3.20	古 今 書 院	
10. 太陽研究の新紀元	關 口 鯉 吉 著	1. ¥ 1.20	岩 波 書 店	
11. 珍しい隕石の話	加 瀬 勉 著	1. ¥ 2.20	岩 波 書 店	
12. 支那歷法起原考	飯 島 忠 夫 著	1. ¥ 6.50	岡 書 院	
13. 時計讀本	米國ウオルサム時計會社 編	1. ¥ 0.65	米國ウオルサム 時計會社出版部	
14. 反射屈折天體望遠鏡作り方觀測手引	中 村 要 著	1. ¥ 2.50	新 光 社	
15. 星の名と其の索り方	瀧 川 文 雄 著	1. ¥ 2.30	海 文 堂 書 店	
16. ポケット星座早見	宮 森 作 造 著	1. ¥ 0.50	淺山理化學商會	
17. 氣象學講話	岡 田 武 松 著	1. ¥ 2.50	岩 波 書 店	
18. 1929年版天文年鑑	天文同好會 編	1. ¥ 1.50	新 光 社	
19. 1930年版天文年鑑	同 上	1. ¥ 1.80	同 上	
20. 理科年表	東京天文臺 編第六冊	¥ 1.50	丸 善 株 式 會 社	
21. 同 上	同 上 第七冊	¥ 1.50	同 上	

22.	昭和5年航海年表	水路部編	1.	¥ 1.15	日本郵船會社
23.	天文年歷	中華民國十九年天文研究所編	1.	¥	國立中央研究院
24.	天文論文集	前原寅吉著	1.	¥	宇宙互愛研究所
25.	岩波講座物理學及び化學		24.	¥55.00	岩波書店
26.	地理學講座天文學	關口鯉吉著	1.	¥	地人書館
27.	天界	天文同好會		¥ 5.00	天文同好會
28.	天文月報	日本天文學會		¥ 2.00	日本天文學會
29.	科學畫報	新光社		¥ 6.60	新光社
30.	子供の科學	子供の科學社		¥ 5.50	子供の科學社
31.	初等天文學講話	山本一清著	1.	¥ 2.50	恒星社
32.	天體と宇宙	同上	1.	¥ 2.50	新光社
33.	新撰「星座の親しみ」	同上	1.	¥ 1.00	恒星社
34.	一般天文學	平山清次著	1.	¥ 3.00	共立社
35.	天文學概論	本田親二著	1.	¥ 2.50	教育研究會
36.	史的に見たる科學的宇宙觀の變遷	寺田寅彦譯	1.	¥ 0.40	岩波書店
37.	空の神秘	原田三夫著	1.	¥ 1.00	學洋社
38.	星座風景	野尻抱影著	1.	¥ 1.50	研究社
39.	星座巡禮	同上	1.	¥ 1.50	同上
40.	太陽と太陽系	津田雅之著	1.	非賣品 (謄寫版)	
41.	天文講話「惑星の話」	神田茂述	1.	¥ 0.10	社會教育協會
42.	日時計とファウンテン	吉田享二著	1.	¥ 1.60	雄山閣
43.	天文年鑑1931年版	天文同好會編	1.	¥ 2.00	新光社
44.	理科年表昭和七年	東京天文臺編	1.	¥ 1.50	丸善株式會社
45.	日本天文學會要報第一號	日本天文學會編	1.	¥ 1.25	日本天文學會
46.	同上 第二號	同上	1.	¥ 1.25	同上
47.	同上 第三號	同上	1.	¥ 1.25	同上
48.	天文捷徑平天儀圖解	巖橋耕抑堂述	1.	不明	大阪書林弘所

1. 標準天文學は必讀書. 2. 通俗天文學講話は大正九年物故された一戸博士の通俗講義天文學の改題されたもの, 舊天文學の良參考書. 3. 星と原子はエー・エス・エドントン原著. 第一章星の内部, 第二章最近の研究, 第

三章星の年齢、追加シリウス伴星物語の續編に分れ、數學、物理學上に基礎を置かれ利するところが多い。4. は天文ファンを喜ばすもの。5. は眞田豊治氏の力著、アインシュタイン氏の相對論の批評と紹介。相對論を主篇とし、相對論に對する著者の意見を述べられたるもので、所々に有益なところがある。6. と 7. とには天文學者の傳がある。8. 太陽系講話は、天球から説き起し、天體としての地球、地球の軌道運動、時、季節と曆、月、太陽、食及び掩蔽、惑星一般、各惑星、彗星、流星及び黃道光について詳細に説述されてあるところの好著である。9. 數理地理學は緒論、觀察地中心系統、地球中心系統、太陽中心系統、銀河系統、非ユークリッド空間的考察に分ち、細論してある。10. 太陽研究の新紀元は、最近二十年程の間に諸國の天文家の行つた研究成果の中、特筆すべきもの五題、即ち太陽旋風、太陽及び星の内部構造、太陽と星の氣象、太陽と星の生ひ立ち、變光星太陽を選んで其の要點を記述されたものである。11. 隕石の話は、前後兩編に分割され、前編は全く江湖讀書子の娛樂的材料で、隕石に關係した全般のことが大體述べてあるが、後編には少し立入つて隕石を調べて見ようといふ特志家の參考となるべきもので、隕石の分類、隕石の礦物學的組成、隕石の化學的組成、隕石の組織、グイドマンステツテン組織に就いて、隕石の標本及び文献と題し、専門的記述多く。關口氏の「太陽」神田氏の「彗星」と同様の良書。邦文で隕石を研究するに大切な書である。12. 支那曆法起原考は支那天文を研究するに必要缺くべからざる好著で、新城博士の「東洋天文學史研究」と比較し熟讀すべき名著である。13. は時計に關する總ての事項に就いて、廣汎なる範圍に亘り、簡潔平易に記してあるから時計に關する常識を養ふに最も適して居る。14. は著者の貴重なる經驗を基として、丁寧に記述してある。望遠鏡を作らんとする人々のみならず、之れを使用する人も心得て置かねばならぬことで、又觀測の手引によつて、星を覗くときは勞少くて、功人なるものがある。15. は運轉士瀧川文雄氏が、世界各地に航海され、實際に星を取扱はれ、筆を執られたものであるから、應用天文學の方面から貴重な著である。16. 我が同好會員の一人、宮森作造氏が初學者の爲めに物された愛らしい星座早見である。17. 天文家も一應は氣象學の心得が必要である。岡田博士の「氣

象學」は名著であるが、彪大であるから、一般の者は此の「氣象學講話」程度の知識を要するものである。18.—21. は讀者先刻御承知の書である。22. 航海年表は年々水路部から出版せられ、航海者必携の書である。23. は中華民國に於ける天文家、航海者の座右の書で、天象圖を見ると星座の譯名が、我が國と同様のものもあるが、中には異なつて居るものもある。二、三を舉げると、雄獅、巨蟹、孿生、執御、獵戶等といふのがある。24. は前原寅吉 (Leo) (Can) (Gem) (Aur) (Ori) 氏の論文十五篇に、身邊雜記を添へたるもの。著者は青森縣八戸市の人。望遠鏡四臺を所有せらる。一は二百五十年前に製せられたものでオランダ製、倍率は百倍。一は二百八十年前に製せられたるもの。他に五糎と7糎とを有せられ、日々之れを撫し、快心の笑を洩しつつ研究に従事されて居る特志家である。25. 天文學者に數學、物理學の素養必要なることはいふ迄もない事である。數學の方は共立社出版の輓近高等數學講座十八冊は良書である。岩波講座の物理學及び化學の中に宇宙物理學がある。その執筆者及び題目は、藤原咲平博士の大氣物理學、氣象光學、空中電氣學。松山基範博士の地殻及び地球内部の物理學。和達清夫學士の地震觀測法。岡田武松博士の地球磁氣學。須田院次學士の海洋物理學。松隈健彦學士の三體問題、恒星内部構造論、關口鯉吉博士の天體輻射、變光星。神田茂學士の彗星及び流星、新城新藏博士の宇宙進化論である。尙ほ中村清二博士の幾何光學。砂山角野學士の光學器械。山田幸五郎博士の波動光學、物質の光學的性質。熱輻射及びブルミネッセンス。木村正路博士の分光學も見逃せない。26. 天文學は第一講を終つて、次々に世に出る豫定。27. 28. は諸君御承知の本邦に於ける月刊天文雜誌である。日本天文學會では五年末から天文學の進歩を知らしむる爲めに、日本天文學會要報第一號(定價壹圓五拾錢)を發刊し、天文月報は普及を目的とせる通俗雜誌とすることにした。要報は今後毎年一回若しくは二回發行される由である。29. 科學畫報、昭和四年九月號は「宇宙及び天體」號。昭和五年九月號には特別讀物に宇宙天體の驚異あり、別冊附録「最新天體畫報」は呼び物であつた。野尻抱影氏は昭和三年の毎號に「星座春秋」、四年には「南中の星座」、五年には「星座鑑賞」に得意の筆を振はれた。神田理學士は毎月の天象を

執筆された。科學知識にも天文のことがよく書かれてある。30. 子供の科學は理學士原田三夫氏の主宰するもの。昭和五年九月號の特輯記事—空の科學は東京天文臺の水野良平、井上四郎、神田茂、小川清彦、田代床三郎、M生、K生、O生、S生、Y生諸氏の執筆で、その外に結城正明、五藤齊三兩氏の天文に關する記事も見えた。31. 初等天文學講話は山本博士が初學者の爲めに執筆された名著であるが、一通り初歩の天文書を讀んだ人々が復習的に繙くべきによい本である。32. は普及版「萬有科學大系」正篇第一篇であつて、一部賣りもするから、繪の多い本書を手にし熟讀されたい。33. は山本博士の處女作の訂正増補されたもので何人にも理解され、何萬部も出たが益々好評を博して居る。34. 一般天文學は共立社物理學講座に掲載されたものを單行本として出版されたものである。山本博士の初等天文學講話と本書とがあれば素人はこれで十分だと思ふ。35. 昭和六年は天文書の當り年で、山本、平山兩博士の良書に次いで本書が出版された。挿繪、卷末の星圖が鮮明で讀むべく、又見るべき通俗天文書である。36. はアーレンウスの原著を譯されたもの、以前に故一戸博士が譯されたものがあるが、僅々四拾錢で手にせられる。37. 38. 39. は通俗天文書で肩のこらない素人向きのものである。40. は大阪の天文同好會員津田雅之氏の著、小學校教員、家庭向きの書である。41. は僅々三十四頁の小冊子であるが、さすがは専門家の手になれるもの、要領よく書かれて居る。42. は造園叢書の第十四回であるが、日時計に關する本邦最初のもので、園家のみでなく、天文に關する人も一讀すべきであらう。43. 44. は年々刊行される年鑑で手許になくしてはならないものである。45. 46. 47. は専門家の一讀すべきもの、又熱心な素人も座右に置くべきものである。48. は享和二年(西曆1802年)の出版に係るもの、時々はこの様な古書を繙くも一興である。

倉敷天文臺 水野千里 著

### 「滿洲の氣候と天上の花」

#### 目次

- 口繪 1. 滿洲の氣候 2. 回顧十六年 3. 水極星について 4. 昭和七年の天文學界 5. 白靴は星を語る 6. 星座の歌 7. 倉敷天文臺  
四六版、頁數五十七頁 定價金參拾錢、郵税金貳錢、發賣所 天文同好會